教育かわら版

こんにちは教育委員会です ふたたび

No.１５５
令和３年６月１０日発行
今金町教育委員会の会
文責：教育長　中山秀悦

教育委員さんに時折寄稿いただいているリレーエッセイ。
４人の方々には「いつでもかまいません」とお願いしております。大体このかわら版自体が不定期。執筆の順番は４名の方々に決めていただいたので、その順番に玉稿を頂戴しておりました。
いつも、感じておりました。
「こういう方々が教育委員さんだから、この町はゆったりと、温かく、でもきちんとしているのだ」と。



教育委員リレーエッセイ
『見えない学力』

今金町教育委員　　永井　章

最近読んだ本より、「見えない学力」という言葉がちょっと気になるワードになったので調べてみました。見えない学力とはどんな学力なんだろうかと？
「見えない学力の育て方」という本を読みました。その中で学力には「見える学力」と「見えない学力」の２つの学力があり、見える学力はテストの点数で表せる学力、見えない学力はテストの点数で表せない学力であるとありました。ますます見えない学力が気になってしまいました。読み進めていくと見えない学力には４つの力が必要であるとあります。どんな４つの力なんでしょうか？
「人を大切にする力」、「自分の考えを持つ力」、「自分を表現する力」、「チャレンジする力」という４つです。そして、それらは１０年後の社会を生きぬくために必要な力で、見えない学力は学び合いで育ち一人では伸ばせない力であるといっています。
見えない学力＝生きぬく力、学び合いで育つ＝学校生活、集団生活の中で育つ、ということなんだと思いました。そして、ただ単に「学力」だけに注目していてもだめだとも思いました。
また、これらの力を身につけるのに「たったひとつの約束」という約束があります。それは、「自分がされていやなことは人にしない、言わない」とありました。
終わりに、生きぬく力を見えない学力という言葉で表現することによって、人の意識を少し変えることができて、そして意識を変えることによってこれからの変化が激しく予想しにくい時代、多様性な社会を楽しく共に生きていく力が身についていくのではないかと思いました。







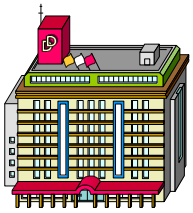
雑感

緊急事態宣言継続。自由な行動も、子供たちの活動の様子を見に行くことも、今はまだ我慢。もう少しだと信じて。
結局頭の中だけで考えることが多くなって、昔のことを思い出して。

思えば人に恵まれてきた。色んな人にお世話になってきた。運が良かった。
白線の入った学生帽をかぶっていた時代。中学校の時の理科の先生。イレブン。理科室に張ってあった『真理の探究』『無知の知』
なぜイレブンかというと、お名前が寿一先生。じゅいち・じゅういち、だからイレブン。
ちょっとよれた白衣を着て、下はジーパン、裸足。通勤、家庭訪問も自転車。そういえば髪もやや長髪でパーマか、縮れてたなあ。担任してはもらえなかったけど、授業が楽しかった。良い先生でした。
理科の授業中。普通に班単位で受けていたら、イレブン、急に黙った。どうしたかなと思ったら、自分たちの方を見ている。
イレブン：「秀悦。班長。前川さん（生徒会長でした)、笑ってるよ。ふざけてるよ」
？？？　前川さん、首を横に振っている。
私：「ふざけてません」
イレブン：「だったらいいけどよお」　授業を続ける。教室は静まりかえっている。
よく分からなかったから彼女に、「あ、これ？」
前川さん、笑って「うんうん」　すると
イレブン：「秀悦。前川さん　また笑ってるよ。前川さん、俺のことなめてんじゃねえかあ」
私：「なめてません」（変な応えですね）
イレブン：「じゃあ、どうしたのよ？」
私：「あの、僕が体の向きを変えようと思ったら、腕が机からガクッとズレて・・・」
さすがに、口元が緩む友だち。
イレブン　一度、黒板の方を向いて止まった。また私に目を向け、「秀悦ー。ずっこけるなぁ」
「はい」
その後教師になった私は、白衣に憧れ、着てました。



今もノートに書き留めておく時に使っている２本の万年筆。どちらも日本製。メーカーは違う。一本は１４金・太字、もう一本が１４金・中細字。
学生時代からずっと使っている。函館のプロ野球球団の名前がつくｓデパートで買ったもの。２本目を買ったときに文房具売り場の方から、「よかったらこれ使ってください」といただいたフランスの万年筆メーカーのペンケース（こっちの方が高くないか？）に２本とも入れて。
考えてみたら、もう４０年近く･･･。
どちらかというと新しいものに手が出る自分にとっては、すごい長持ちだ。書き味に満足しているからかな。
今はない Ｓ デパート。ボーリング場とパチンコ屋さんになっている。そのデパートだって、私が大学に入った頃にはまだなく、市電の梁川町電車車庫だった。
Ｓ デパートには、ずいぶんとお世話になった。地下の食料品売り場くらいだが･･･。閉店間際に買いに行くと、惣菜売り場のおばさんがおまけしてくれた。値段を負けてくれたのではなく、「おばさんにも息子がいてね」とキャベツの千切りなんかを袋に入れてくれるのだった。
その頃もイカは穫れていなかった。最後の北洋船団を見送りに行った。



また、いい時代はやってくる。
そう思って懐かしんでいる。　自分はこれまで運が良かった。